

---

# 苫小牧市立病院経営強化プラン自己評価

---

令和 7 年 8 月

苫小牧市立病院

## 【目 次】

苦小牧市立病院経営強化プラン評価基準表	1
1 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	2
(1) 医療機能に係るもの	2
(2) 医療の質に係るもの	4
(3) 連携の強化に係るもの	5
(4) その他	5
2 経営指標に係る数値目標	6
(1) 収支改善に係るもの	6
(2) 経費削減に係るもの	6
(3) 収入確保に係るもの	7
(4) 経営の安定性に係るもの	8
3 収支の状況	9

## 苫小牧市立病院経営強化プラン評価基準表

苫小牧市立病院経営強化プランに掲げた項目（41項目）について、令和6年度の目標値と実績値を比較、分析し、以下のとおりAからEまでの5段階で評価する。

評価	評価基準
A	経営指標の目標値を大幅に上回り、特に優れた成果が認められる。
B	経営指標の目標値を達成している。
C	経営指標の目標値をおおむね達成している。
D	経営指標の目標値を下回っており、改善の余地がある。
E	経営指標の目標値を大幅に下回っており、大幅な改善が必要。

# 1 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

## (1) 医療機能に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析																				
					評価	コメント																			
1	地域救急貢献率(%)	38.0	36.7	▲ 1.3	C	<p>目標値を下回りましたが、前年度よりも2.6ポイント増加し、コロナ禍前の令和元年度37.4%に近い数値となりました。引き続き、目標値を達成できるように、地域の救急需要に適切に対応していきます。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>34.1%</td> <td>36.7%</td> <td>2.6%</td> </tr> </table>		5年度	6年度	増減	34.1%	36.7%	2.6%												
5年度	6年度	増減																							
34.1%	36.7%	2.6%																							
	【参考】	地域とは当医療圏（東胆振医療圏）を指す(以下、同様)。地域で救急搬送された患者に対して、当院で引き受けた救急車来院患者数の割合を示す。																							
	【算出式】	地域救急貢献率(%) = 救急車来院患者数 ÷ 二次医療圏内救急車搬送人数 × 100																							
2	地域分べん貢献率(%)	68.0	74.8	6.8	B	<p>当院の分べん件数は前年度よりも47件減少しましたが、二次医療圏の出生数が減少したことが影響し、目標値を6.8ポイント上回る結果となりました。今後も、圏域に必要な周産期医療体制の維持に努めていきます。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="3">(二次医療圏の出生数)</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>1,000人</td> <td>897人</td> <td>▲103人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(当院分べん件数) 【3頁の6番参照】</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>▲増減</td> </tr> <tr> <td>698件</td> <td>651件</td> <td>47件</td> </tr> </table>		(二次医療圏の出生数)			5年度	6年度	増減	1,000人	897人	▲103人	(当院分べん件数) 【3頁の6番参照】			5年度	6年度	▲増減	698件	651件	47件
(二次医療圏の出生数)																									
5年度	6年度	増減																							
1,000人	897人	▲103人																							
(当院分べん件数) 【3頁の6番参照】																									
5年度	6年度	▲増減																							
698件	651件	47件																							
	【参考】	地域での出生数に対して、当院で出生した割合を示す。																							
	【算出式】	地域分べん貢献率(%) = 当院出生数 ÷ 二次医療圏出生数 × 100																							
3	訪問診療・看護件数(件)	150	88	▲ 62	D	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行により、制限が緩和されてからは、訪問診療・看護の需要は減少したことから、6年度についても前年度の実績値とほぼ横ばいとなりました。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>86件</td> <td>88件</td> <td>2件</td> </tr> </table>		5年度	6年度	増減	86件	88件	2件												
5年度	6年度	増減																							
86件	88件	2件																							
4	手術件数(件) (うち全身麻酔手術 (件))	2,500 (1,500)	2,878 (1,800)	378 (300)	B	<p>入院患者数の増加に伴い、複数の診療科において手術件数が増加し、目標値を上回りました。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>2,639件 (1,584件)</td> <td>2,878件 (1,800件)</td> <td>239件 (216件)</td> </tr> </table>		5年度	6年度	増減	2,639件 (1,584件)	2,878件 (1,800件)	239件 (216件)												
5年度	6年度	増減																							
2,639件 (1,584件)	2,878件 (1,800件)	239件 (216件)																							

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析							
					評価	コメント						
5	救急患者数(人)	5,700	5,250	▲450	C	<p>不応需の妥当性を検証し、運用改善に努めておりましたが、前年度より107人の減少となり、目標値を下回る結果となりました。</p> <table border="0"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>5,357人</td> <td>5,250人</td> <td>▲107人</td> </tr> </table>	5年度	6年度	増減	5,357人	5,250人	▲107人
5年度	6年度	増減										
5,357人	5,250人	▲107人										
6	分べん取扱い件数(件)	680	651	▲29	C	<p>前年度より47件減少し、目標値を下回りました。今後も、地域で安心・安全な出産が可能な体制の維持に努めていきます。</p> <table border="0"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>698件</td> <td>651件</td> <td>▲47件</td> </tr> </table>	5年度	6年度	増減	698件	651件	▲47件
5年度	6年度	増減										
698件	651件	▲47件										
7	リハビリ件数(件)	38,200	43,991	5,791	B	<p>入院患者数の増加に伴いリハビリテーション医療の提供件数が増加し、目標値を上回りました。</p> <table border="0"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>43,626件</td> <td>43,991件</td> <td>365件</td> </tr> </table>	5年度	6年度	増減	43,626件	43,991件	365件
5年度	6年度	増減										
43,626件	43,991件	365件										

(2) 医療の質に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析		
					評価	コメント	
8	入院患者満足度(%)	100.0	98.0	▲ 2.0	C	前年度よりわずかに減少となりましたが、目標値をおおむね達成しました。	
						5年度 99.0%	6年度 98.0%
【参考】		アンケート調査による入院患者の満足度を示す。					
【算出式】		入院患者満足度(%) = 満足のいく治療を受けたと回答した入院患者数 ÷ アンケートの有効回答者数 × 100					
9	外来患者満足度(%)	95.0	94.1	▲ 0.9	C	前年度より4.9ポイント増加しましたが、目標値をわずかに下回りました。	
						5年度 89.2%	6年度 94.1%
【参考】		アンケート調査による外来患者の満足度を示す。					
【算出式】		外来患者満足度(%) = 満足 of いく治療を受けたと回答した外来患者数 ÷ アンケートの有効回答者数 × 100					
10	在宅復帰率(%)	90.0	91.1	1.1	B	自宅復帰に向けた退院支援などにより、目標値を上回りました。	
						5年度 92.1%	6年度 91.1%
【参考】		退院患者のうち、自宅、他院の回復期リハビリテーション病棟、介護老人保健施設などへの退院の割合を示す。					
【算出式】		在宅復帰率(%) = 退院先が自宅等の患者数 ÷ 生存退院患者数 × 100					
11	クリニカルパス使用率【患者数】(%)	60.0	74.0	14.0	A	院内全体でクリニカルパス使用率向上に努めた結果、目標値を大きく上回る結果となりました。引き続き、使用率の維持向上に努めていきます。	
						5年度 64.2%	6年度 74.0%
【参考】		入院患者に対し、クリニカルパスを適用した割合を示す。					
【算出式】		クリニカルパス使用率【患者数】(%) = クリニカルパス新規適用患者数 ÷ 新入院患者数 × 100					
12	クリニカルパス使用率【日数】(%)	30.0	50.2	20.2	A	11番と同様に、目標値を大幅に上回りました。引き続き、使用率の維持向上に努めていきます。	
						5年度 43.9%	6年度 50.2%
【参考】		入院患者の延べ日数に対し、クリニカルパスを適用した割合を示す。					
【算出式】		クリニカルパス使用率【日数】(%) = クリニカルパス適用日数合計 ÷ 入院延べ日数 × 100					

(3) 連携の強化に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
13	初診紹介患者数(人)	5,600	6,366	766	B	<p>前年度よりわずかに減少となりましたが、目標値を766人上回りました。 今後も、より多くの患者紹介をいただけるよう、地域のかかりつけ医との連携強化に努めていきます。</p> <p>5年度 6,447人      6年度 6,366人      増減 ▲81人</p>
14	逆紹介(診療情報提供)件数(件)	5,670	6,561	891	B	<p>前年度よりわずかに減少となりましたが、目標値を891人上回りました。 今後も、治療状況に応じて地域のかかりつけ医へ適切に逆紹介できるよう、連携強化に努めていきます。</p> <p>5年度 6,641人      6年度 6,561人      増減 ▲80人</p>
15	紹介率(%)	57.5	57.1	▲0.4	C	<p>前年度より3.6ポイント増加しましたが、目標値をわずかに下回りました。 今後は、初診紹介患者の増加に努めることにより、紹介率の増加を目指していきます。</p> <p>5年度 53.5%      6年度 57.1%      増減 3.6%</p>
<p><b>【参考】</b> 初診の患者数に対して、紹介受診、救急受診する患者の割合を示す。 <b>【算出式】</b> 紹介率(%) = (初診紹介患者数+初診救急患者数) ÷ 初診患者数 × 100</p>						
16	逆紹介率(%)	40.0	47.8	7.8	B	<p>前年度より4.6ポイント増加し、目標値を7.8ポイント上回りました。 今後も、治療状況に応じて地域のかかりつけ医へ適切に逆紹介できるよう、連携強化に努めていきます。</p> <p>5年度 43.2%      6年度 47.8%      増減 4.6%</p>
<p><b>【参考】</b> 初診の患者数に対して、他の医療機関へ紹介する患者の割合を示す。 <b>【算出式】</b> 逆紹介率(%) = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 × 100</p>						

(4) その他

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
17	後発医薬品指数(%)	90.0	95.2	5.2	B	<p>後発医薬品の供給停止や出荷調整の影響が続いている状況ですが、代替後発医薬品の確保に努めた結果、目標値を上回りました。</p>
<p><b>【参考】</b> 後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用割合を示す。 <b>【算出式】</b> 後発医薬品指数(%) = 後発医薬品の数量 ÷ { (後発医薬品のある先発医薬品の数量) + (後発医薬品の数量) } × 100</p>						
18	基幹型初期臨床研修医の受入人数(人)	14	14	0	B	<p>当院の特色を積極的に発信するとともに、実習受入れの推進や、きめ細やかな見学対応など人材確保に向けた取組を行った結果、目標値を達成しました。</p>

## 2 経営指標に係る数値目標

### (1) 収支改善に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
19	経常収支比率(%)	94.5	92.2	▲2.3	C	経常収益・経常費用ともに減少し、経常費用の減少幅の方が小さいため、目標値をわずかに下回りました。
	【参考】	経常収益＝医薬収益＋医薬外収益 経常費用＝医薬費用＋医薬外費用 経常収支＝経常収益－経常費用 【算出式】 経常収支比率(%)＝(経常収益÷経常費用)×100				
20	修正医薬収支比率(%)	81.3	78.4	▲2.9	C	医薬収益・医薬費用ともに減少し、医薬費用の減少幅の方が小さいため、目標値をわずかに下回りました。
	【算出式】	修正医薬収支比率(%)＝{(医薬収益－他会計負担金)÷医薬費用}×100				

### (2) 経費削減に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
21	給与費対 医薬収益比率(%)	55.5	57.8	2.3	C	給与費は目標値より減少しましたが【9頁の36番参照】、医薬収益の減少幅の方が大きいことから【9頁の35、36番参照】、結果として当該比率の目標値を達成できませんでした。
	【算出式】	給与費対医薬収益比率(%)＝(給与費÷医薬収益)×100				
22	材料費対医薬収益比率 (%) (うち薬品費比率 (%))	22.9 (12.3)	23.1 (11.2)	0.2 (▲1.1)	C	主に薬品費の減少により、材料費全体は目標値よりも減少したものの【9頁の36番参照】、医薬収益の減少幅の方が大きいことから【9頁の35番参照】、結果として当該比率の目標値をわずかに達成できませんでした。
	【算出式】	材料費対医薬収益比率(%)＝(材料費÷医薬収益)×100 薬品費対医薬収益比率(%)＝(薬品費÷医薬収益)×100				

(3) 収入確保に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析							
					評価	コメント						
23	年間延入院患者数(人)	92,800	91,690	▲1,110	C	<p>前年度より6,435人増加しましたが、目標値を下回りました。増患対策を継続し、引き続き入院患者数の回復に取り組んでいきます。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>85,255人</td> <td>91,690人</td> <td>6,435人</td> </tr> </table>	5年度	6年度	増減	85,255人	91,690人	6,435人
5年度	6年度	増減										
85,255人	91,690人	6,435人										
24	病床利用率(%)	75.7	73.3	▲2.4	C	<p>23番と関連して、目標値を下回りました。病床管理体制をさらに強化し、引き続き利用率の回復に取り組んでいきます。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>70.0%</td> <td>73.3%</td> <td>3.3%</td> </tr> </table> <p>【算出式】 病床利用率(%) = (年間延入院患者数×100) ÷ (稼働病床数×実日数)</p>	5年度	6年度	増減	70.0%	73.3%	3.3%
5年度	6年度	増減										
70.0%	73.3%	3.3%										
25	入院患者1人1日当たり 診療収入(円)	70,043	67,642	▲2,401	C	<p>診療報酬改定の影響や、平均在院日数の延長により、目標値を下回りました。</p> <p>【算出式】 入院患者1人1日当たり診療収入(円) = 入院収益 ÷ 年間延入院患者数</p>						
26	平均在院日数(日)	10.4	9.7	▲0.7	C	<p>前年度より0.2日延長しましたが、目標値を下回りました。病床管理体制の強化やクリニカルパスの活用により、引き続き在院日数適正化に取り組んでいきます。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>9.5日</td> <td>9.7日</td> <td>0.2日</td> </tr> </table> <p>【算出式】 平均在院日数(日) = 年間延入院患者数 ÷ { (入院件数 + 退院件数) ÷ 2 }</p>	5年度	6年度	増減	9.5日	9.7日	0.2日
5年度	6年度	増減										
9.5日	9.7日	0.2日										
27	DPC係数	0.5275	0.5196	▲0.0079	C	<p>DPC係数に関する新たな施設基準の届出ができず、目標値を下回りました。</p> <p>【算出式】 DPC係数 = 機能評価係数Ⅰ + 機能評価係数Ⅱ (毎年4月1日の係数)</p>						
28	年間延外来患者数(人)	181,000	179,640	▲1,360	C	<p>前年度よりも2,759人増加しましたが、目標値を下回りました。引き続き、地域の関係機関との連携を強化し、外来患者の回復に取り組んでいきます。</p> <table border="1"> <tr> <td>5年度</td> <td>6年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>176,881人</td> <td>179,640人</td> <td>2,759人</td> </tr> </table>	5年度	6年度	増減	176,881人	179,640人	2,759人
5年度	6年度	増減										
176,881人	179,640人	2,759人										
29	外来患者1人1日当たり 診療収入(円)	16,017	14,921	▲1,096	C	<p>診療報酬改定により、薬価等が減少したことが大きく影響し、目標値を下回りました。</p> <p>【算出式】 外来患者1人1日当たり診療収入(円) = 外来収益 ÷ 年間延外来患者数</p>						

(4) 経営の安定性に係るもの

番号	項目	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
30	医師数(人) (臨床研修医等も含む)	79	76	▲3	C	大学等の関係機関との連携や臨床研修の推進等に取り組んできました。結果として目標値を3人下回りましたが、診療への影響はありませんでした。
31	看護師数(人)	417	415	▲2	C	学資金貸与制度の活用や職員の随時募集等に取り組みましたが、一定程度の退職者があったことから、目標値をわずかに下回る結果となりました。
32	企業債残高 (百万円)	7,733	7,280	▲453	B	医療機器の計画的な更新により、企業債残高を目標値より減少させることができました。 今後も効果的な設備投資により費用の平準化を図りつつ、企業債残高の縮減に努めていきます。
【参 考】		企業債とは地方公営企業が施設の建設・改良等に要する資金に充てるために国などから借りるお金のこと				
33	一時借入金残高 (百万円)	0	0	0	B	資金不足が生じた場合は、通常、運転資金を金融機関等からの借入金で措置します。 前年度に引き続き、資金不足が発生していないことから、一時借入金は不要となっています。
34	資金剰余(不足)額 (百万円)	635	342	▲293	D	資金剰余額は確保できたものの、単年度資金収支が目標値を下回り、結果として目標値を達成できませんでした。
【算出式】		資金剰余(不足)額＝流動資産－流動負債				

### 3 収支の状況

(単位：百万円、税抜き)

番号	収益的収支	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
35	病院事業収益	11,964	11,427	▲537	D	<p>医業収益は、手術件数が増加【2頁の4番参照】したものの、患者数や1人1日当たり診療収入の減【7頁の25番、7頁29番参照】などにより、入院収益、外来収益ともに目標値を下回りました。</p>
	医業収益	10,268	9,732	▲536		
	入院収益	6,500	6,202	▲298		
	外来収益	2,899	2,680	▲219		
	その他	869	850	▲19		
	医業外収益	1,670	1,669	▲1		
	特別利益	26	26	0		
36	病院事業費用	12,674	12,405	▲269	B	<p>材料費は、薬価の減少などにより、それ以外の費用は、効率的に執行したことなどにより、目標値より削減することができました。</p>
	医業費用	12,027	11,783	▲244		
	職員給与費	5,696	5,629	▲67		
	材料費	2,354	2,244	▲110		
	経費	2,982	2,923	▲59		
	その他	995	987	▲8		
	医業外費用外	609	586	▲23		
	特別損失	38	36	▲2		
37	経常収支	▲698	▲968	▲270	D	<p>35番、36番に連動して、目標値を下回りました。</p>
	当年度純損益	▲710	▲978	▲268		

(単位：百万円、税込み)

番号	資本的収支	6年度 目標値	6年度 実績値	比較	自己評価・分析	
					評価	コメント
38	資本的収入	930	902	▲28	B	<p>企業債は、医療機器の整備費が減少したことなどにより、目標値より減少しました。</p>
	企業債	415	382	▲33		
	他会計負担金等	514	514	0		
	その他	1	6	5		
39	資本的支出	1,358	1,314	▲44	B	<p>建設改良費は、競争性を確保した適切な契約手続等により減少し、目標値より削減することができました。</p>
	建設改良費	451	421	▲30		
	企業債償還金	864	864	0		
	その他	43	29	▲14		
40	資本的収支	▲428	▲412	16	B	<p>収支マイナスが目標値を上回りました。</p>

41	流動資産	2,889	2,418	▲471	D	<p>累積資金収支は、35番から40番に連動して、目標値を下回りました。</p>
	流動負債	2,254	2,076	▲178		
	うち企業債	890	879	▲11		
	資金剰余(不足)額	635	342	▲293		
	単年度資金収支(健全化法)	▲570	▲874	▲304		
	累積資金収支(健全化法)	1,525	1,221	▲304		

※収支状況の数値については、公営企業の経営に当たっての留意事項について（総務省通知）の収支計画記載要領に基づき、収益的収支は税抜き、資本的収支は税込みで作成している。